



システムLSI特集に寄せて

専務取締役 電子デバイス事業本部長

白井一成

2001年の半導体市場は、過去20年で最大に落ち込み、半導体市況の悪化は、未だに底が見えない状況にあります。富士通は未曾有の不況を乗り切り、2003年以降の市場成長の波を捕らえることができるように徹底した事業のスリム化とナンバーワン商品への経営資源を集中していきます。

富士通の半導体事業は、システムLSIを戦略的商品と位置付け、テクノロジーの先行を維持し「トータル富士通」の強みを最大限に発揮できるネットワーク、モバイル、デジタル家電の3分野に経営資源を集中しています。

本特集では、システムLSIに対する富士通の取り組みと具体的な成果を紹介いたします。

富士通のシステムLSIは、二つのソリューションで構成されています。通信インフラ系を中心に先端テクノロジーを提供する「テクノロジーソリューション」と、デジタル家電機器、携帯情報端末向けにシステムの要素となるIPマクロやソフトウェアといった機能を提供していく「IPマクロソリューション」です。

富士通の0.1ミクロン世代CMOSテクノロジーは、社内コンピュータ部門の世界最高速UNIXサーバや通信の高速ネットワーク機器用LSIを始めとして、富士通ビジネスを支える世界最先端半導体テクノロジーです。先端LSIを開発するためには、プロセスの微細加工技術のみでなく、従来使われていなかった新しい材料やトランジスタ構造へのチャレンジ、それを支えるTCAD技術、そしてますます高度化する設計技術の革新などが相まって初めて可能になります。そのため開発に当たる設計、プロセス、研究所の各部署があきる野テクノロジーセンターに集結しました。あきる野テクノロジーセンターは、超短手番開発、開発から試作までつなぎ目のない移行、そしてこれらを実現するのに十分な試作能力をコンセプトにして立ち上げました。

今後、半導体デバイスが埋め込まれた製品が産業、家庭へと深く浸透し、システムLSIビジネスは、ますます隆盛になり、IT産業の発展は、さらに勢いを増していきます。

21世紀も半導体産業の地位は揺らぐことはなく、富士通では、このシステムLSIで、顧客重視の開発体制のもと、最適なソリューションを提供し続けてまいります。